

令和5年度 第1回新興感染症等対策検討部会 会議録

| | |
|-------------|--|
| 日 時 | 令和5年10月17日(火) 18時00分から19時30分まで |
| 場 所 | オンライン会議 |
| 出席者 職・氏名 | <p>○出席委員(運営規約掲載順、敬称略) 木村 雅芳、倉井 華子、黒川 顕、後藤 雄介、坂下 哲也、鈴木 昌八、高橋 善明、寺井 克哉、福地 康紀、松本 志保子、操 華子、宮入 烈、矢野 邦夫、毛利 博 計14人</p> <p>○欠席委員 渥美 生弘、大曲 貴夫 計2人</p> <p>○事務局(出席した県職員)※委員内の県職員は除く 佐久間感染症対策局長、塩津感染症対策課長、中橋感染症対策課長代理兼参事、岩田総務企画班長(感染症対策課) ほか</p> |
| 議 事 | <p>(1)報告事項 ・ふじのくに感染症管理センターの開設について ・感染症法改正への対応について</p> <p>(2)協議事項 ・情報プラットフォームの構築について ・感染症対策に係る人材育成について</p> |
| 配布資料 | <p>○次第 ○新興感染症等対策検討部会運営要領 ○出席者名簿 ○報告事項・協議事項に係る説明資料</p> |

1 議事事項

(1) 報告事項

- ・ふじのくに感染症管理センターの開設について
- ・感染症法改正への対応について

(2) 協議事項

- ・情報プラットフォームの構築について
- ・感染症対策に係る人材育成について

2 協議内容

(1) 報告事項「ふじのくに感染症管理センターの開設」

(矢野委員)

新興感染症発生時に24時間態勢となるが、休憩場所や仮眠場所はあるか。

(塩津感染症対策課長)

3階の1室をリフレッシュルームに改修し、簡易的な食事がとれる場所にする。簡易ベットや非常食などの備蓄を進めていきたい。

(毛利顧問)

司令塔機能とは具体的にどのようなイメージをしているか。また、センター長一人で県職員、病院を差配するのは難しいと思う。

(塩津感染症対策課長)

現在作成中の予防計画にふじのくに感染症管理センターの位置づけや具体的な項目、県の行動計画をしっかりと詰めた上で策定をする。

(毛利顧問)

誰が差配するか、あるいはグループでやるのか等、事前に決める必要がある。

(2) 報告事項「感染症法改正」

(毛利顧問)

新型コロナでの課題を挙げて、その課題をどのように改善して予防計画等に反映していくのか。新型コロナで学んだことを生かしてほしい。また、第1種協定医療機関、第1種指定医療機関など似たような言葉があるので、言葉の定義をしてほしい。また、新型コロナでは感染症指定病院が機能しなかったため、見直しが必要ではないか。

(塩津感染症対策課長)

新型コロナの振り返りをしており、その課題解決の施策を予防計画の中に盛り込んでいく。各医療機関に説明する中で、役割分担がわかるような資料を作成した上で、指定医療機関に丁寧に説明をしていく。また、予防計画の策定と同時に、現在の指定医療機関体制の見直しや充実に取り組む。

(毛利顧問)

新興感染症等対策検討部会で予防計画の策定の結果を共有してほしい。情報共有をして、全県に広めていく作業が非常に大切である。

(塩津感染症対策課長)

共有する。

(松本委員)

予防計画の数値目標の設定の考え方の材料はなにか。また、看護職員が疲弊し、離職しているため、その対策を計画に盛り込んでほしい。

(塩津感染症対策課長)

新型コロナの時の最大値や調査をとりまとめた数値など国が数値目標を示している。数値目標を検討してから、お諮りしたい。また、新型コロナの際には看護職は非常にご苦労されたため、課題解決のための施策を予防計画に盛り込みたいため、意見を伺いたい。

(鈴木委員)

重点医療機関ではクラスターが発生した施設に指導を行っていたが、クラスターが多発したため、対応に苦労した。その方々にデジタルの研修だけでよいかは疑問がある。ふじのくに感染症管理センター内に新たに開設する施設関係者に教育ができるような場を設けてほしい。

(塩津感染症対策課長)

協議事項「感染症対策に係る人材育成」の中で説明に変えたい。

(木村委員)

静岡版 CDC の中に様々な会議体が入っているが、肝炎医療対策委員会は医療計画において、非常に大事な会議体であるため、行政内の仕切りと整合性をもって示すと理解しやすい。

(塩津感染症対策課長)

検討・相談したい。

(福地委員)

医療措置協定について、介護施設も対象にしてほしい。

(塩津感染症対策課長)

介護施設は法的な対象とならないが、施設内の診療所では対象となる。

(宮入部会長)

予防計画について、計画した事がうまく行くのか現場として疑問が残っている。シュミレーションを通じて、スムーズに対応できるようになる必要がある。

(3) 協議事項「情報プラットフォームの構築」

(坂下委員)

医療情報は狙われているため、セキュリティはしっかりしてほしい。また、人に対する教育が不十分で情報漏洩した例もあるので、合わせて教育をしっかり行ってほしい。

(塩津感染症対策課長)

セキュリティホールを狙われるケースが多いため、構築するシステムを通じて、個人情報が出ないようセキュリティ分野についてはしっかりと担保していく。情報に関する人材についても、情報に精通した人を育成する教育、研修が必要だと思っている。

(操委員)

次回の部会で具体的に示すとのことだが、作った後に変更は可能になるのか。また、一番使う一般市民の意見を踏まえて作成してほしい。

(塩津感染症対策課長)

ニーズと乖離するものがないように手順を踏んで進めしていきたい。また、システムは汎用性に優れていて、様々な表現方法を数回クリックしただけで変更できる。一度目星がついた段階でデモ等で披露していきたい。

(操委員)

アウターシステムは一般市民(特に高齢者)が使うもののため、ユーザーにファミリアなものにしてほしい。

(木村委員)

NESID に発生届を入力しない病院があるため、保健所が代行入力をしている。代行入力を県内で一元化するなど、対策を講じてほしい。

(塩津感染症対策課長)

必要な対策を検討する。

(毛利顧問)

入力はワンスオンリーにすることが原則である。また、国を含めてコードの統一化を図り、独自のカスタマイズを行わないようにすべきである。

(塩津感染症対策課長)

コードの統一化については、県だけで取り組める話ではないため、国に要望していく。

(宮入部会長)

システム化は大変だと思うが、相談できる静岡県にはデジタル庁のような専門部門はあるか。

(塩津感染症対策課長)

電子県庁課とデジタル戦略課があるので、相談しながら進めていきたい。

(宮入部会長)

アウターシステムの構築がメインになるのか。

(塩津感染症対策課長)

インナーシステムは昨年度から取り組んでいるため、現在はアウターシステムについて、急ぎ取り組んでいる。

(4) 協議事項「感染症対策に係る人材育成」についての委員の意見

(倉井委員)

講師としては東部中部西部に出向いて講義を行うのは大変であるため、オンラインを導入するのはどうか。また、1参加あたりの研修が長く集中力を持たせるのも大変なので、時間を短くした方がいい。また、オンデマンドも15分単位などの短いコンテンツ毎に区切ることがいいと思う。

(塩津感染症対策課長)

時間については来年の研修のカリキュラムを組む中で相談する。、オンデマンド配信も単元毎区切るのが望ましいと思うので、対応する。

(木村委員)

コロナによって医療関係者や福祉関係者がプレッシャーを感じている。感染症に対して前向きに捉えられるように緩く楽しい研修にした方がいい。

(塩津感染症対策課長)

研修の途中にクイズを取り入れるなど、検討する。

(操委員)

高度専門性人材の教育を強化し、高度専門性人材が一般職員の士気を上げるようにするのはどうか。LテックのCICの免許を日本で取得した人がいないため、取得を支援する取り組みもいいのではないか。

(塩津感染症対策課長)

高度専門性人材の教育については、県独自の研修が困難なため、外部研修を活用する。来年度の取り組みの方向性が見えた段階で報告する。

(松本委員)

看護協会で感染管理認定看護師に特定行為研修を足した研修を募集したが、来年度は定員割れをして関係各位にお願いをして受講生を確保したが、皆様の協力を願いたい。

(塩津感染症対策課長)

協力、相談する。

(倉井委員)

疾患の各論を15分程度のショート動画を発信するのはどうか。一緒に動画を作成して発信していきたい。

(塩津感染症対策課長)

動画撮影できるようなスタジオのような機能も作りたいため、一緒にお願したい。

(4) その他 9枚目スライド 会議体について

(宮入部会長)

ふじのくに感染症管理センターが司令塔として機能しつつ、連携協議会の専門家からの助言を受けて、形にして、連携協議会で諮るってというようなそういう流れか。

(倉井委員)

ふじのくに感染症管理センターのあり方について、コロナの際はDMATの先生方も多く参加したので、DMATの先生の意見も聞いた方がよいのではないか。

(塩津感染症対策課長)

検討する。

(木村委員)

第1回連携協議会の中で、連携協議会の取り扱う感染症の範囲が曖昧のままであったため、仕切りをはっきりさせたほうがよいのではないか。

(塩津感染症対策課長)

資料を作成して、お諮りする。